

乳幼児の親に啓発

大船渡

こそだて
シッブ 幼い命を守る防災月間

大船渡市のNPO法人こそだてシッブ(伊藤恰子理事長)の「幼い命を守る防災月間」は、13日にスタートした。28日(火)までの期間中、同NPO法人が盛町のショッピングセンター「サン・リア」で運営している子育て支援センター「すくすくルーム」で、乳幼児の親向けの啓発活動を行っている。

長男の駿希君(2)と来所した猪川町の多田優子さん(34)は、「防災グッズに、こんな

域を示したハザードマップも掲示している。13日には、毎週月曜日に行われている手話教室で、テーマのひとつを防災とした。地震や津波といった単語を覚えたり、手話を交えながら、大震災当日のそれぞれの状況などを

あるとは知らなかった。非常食とは思えないおいしい食べ物もあるので、子どもに食べ

「防災月間は、同NPO法人が独自に設定したものだ。東日本大震災当時、子どもがいなかった親が増えるなか、大震災から得た教訓の風化を防ぐと企画された。」

「すくすくルームの一角に、懐中電灯や電池、非常用口腔(こうこう)ケアのガム、お尻ふき用ウェットティッシュなど、多種多様な防災グッズを展示。地区別の避難所や津波浸水区



展示された防災グッズを見る親子(盛町)

させるのも安心」と感心した様子。また、「万が一の際の避難場所が決めている。災害が起きたら連絡も取れないと思うので、普段から家族で相談しておきたい」と話していた。

子どもが落ちにくいおんぶの仕方を教える講習会を毎日実施するほか、津波の写真集や大震災を題材とした絵本も紹介する。

期間中は、防災紙芝居の読み聞かせや、子

すくすくルームの利用時間は、午前10時から午後4時まで(水曜定休)。